

随筆

第二〇回

台風の恐怖

市長 明智忠直



9月9日未明、台風15号が千葉市付近に上陸しました。今回被害に遭われた多くの皆さんに、心よりお見舞いを申し上げます。

最近では台風情報が刻々と伝えられ、私たちはその規模や大きさ、進路など、さまざまな情報を事前に把握できるようにになりました。しかし今回の台風は、発生してから一週間という短期間での襲来であり、私たちの想像をはるかに越える大きな勢力に発達してしまいました。

東京湾から千葉市にコースをとったため、台風の進路の東側に位置する房総半島は、特に甚大な被害を受けました。千葉市の最大瞬間風速57・5mをはじめ、県内10地点で観測史上1位を記録したほか、県下全域で記録的な暴風となりました。気象庁では、日本の沿岸部の海水温が例年に比べて2℃ほど高かったというところで、台風に大量の水蒸気が送り込まれたことが発達した要因だと

しています。

近年、地球規模で自然災害が大規模化しております。一番の原因は、やはり地球温暖化の影響ではないかと考えております。地球の気温は急激に上昇しており、このままでは数十年後に2℃近く上昇すると予想されています。科学技術の発達のこと遺産なのか。いつまでも絶えることのない紛争を終わらせ、今こそ世界が一つとなり、地球温暖化対策など、地球に長く住み続けるための研究を、各国が協力して進めていくことが大切ではないかと思えます。

旭市の基幹産業である農水産業の被害も甚大でありました。9月13日現在で施設被害約15億円、作物被害約4億円、合わせて19億円近くの被害がもたらされました。農業を中心とする第一次産業の一刻も早い復旧のため国、県、市町村が連携し、行政として精一杯の支援策を考えていかなければと思うところであります。